

# 威勢良く茶取引

## 「伊勢茶」スタート

### J A全農みえ南勢茶センター

三重県大台町にあるJ A全農みえ南勢茶センターは24日、2024年産「伊勢茶」の初取引を行った。昨年に比べて4日遅い開催となった。最高値は1㍗当たり5万5500円、前年の同3万5880円を大きく上回った。

平均単価は同907



9円となった。場内では商談のまとまりを告げる手締めの音が鳴り響いた。

初取引には大台町と大紀町の生産者5戸が、普通煎茶15点、116㍗を出品した。今年産は、3月に寒の戻りがあったが、4月の適度な気温や降雨の影響で、生育が順調に進んだ。摘採の最盛期は5月3、4日を見込む。

初取引のセレモニーには、生産者や茶商、県内J Aの担当者ら約50人が集まった。

全農みえ農産部の大瀬憲一郎長は「例年以

最高値が付いた茶を取引する茶商ら（24日、三重県大台町で）

上に茶の品質が高い」と今後の取引に期待した。適正な価格形成が必要だと訴え、「国内外のマーケットが求める品質や品種の転換、茶需要の創出に取り組んでいく」と意気込みを示した。

最高値の茶は、大紀町の堀江利幸さん（67）の「おおいわせ」。落札したJ A伊勢の担当者は「伊勢茶らしい葉肉の厚い茶だ。例年より、香りが良く、味も乗っている」と評価した。